

上海を流れる川

川を見ていると中国の遙か悠久の歴史に思いを馳せる。上海の中心街に程近い川の畔に宿泊した。眼下にはこれまで何度も写真で、映像で見た黄浦江こうほこうが流れていた。関空を出て 3 時間余りで中国の大都市・上海を見渡している。幅 400m の黄浦江の西側はこれまでの中心街であった外灘エリアが広がり、そして東側の浦東エリアは改革開放以前までは農村地帯であったが、現在では浦東新区という超高層ビル街に変身している。

この川を渡るには地下鉄、地下道や南浦大橋のほか、渡し船（2 元）もあり、ここを往来するには上海の居住人口・1778 万人が示す通り、交通事情は厳しいものがあるようだ。

黄浦江は内陸部の太湖から流れ出た川が注ぎ込んでいる淀山湖に源を発する。長さ 97km。長江が東シナ海に合流する最後の支流となっている。川の色は泥が混じったような黄色で、決して透き通った透明感はない。朝起きて暫く川を眺めていると、大型船の航行は無いにしても中型小型船から小船まで頻繁に行き来をしている。中国経済の重要な運搬手段であることが分かる。また現在大変な勢いで中国が発展しているのを象徴しているようにも見えた。

この川を見ていると東京の隅田川を思い出す。そしてパリのセーヌ川。川は人間生活にとって大きな役割を果たしてきた。世界の主要都市には必ず川沿いに発展してきた歴史を持っている。水は留まることはない。次から次へ止めどなく新たな水は流れていく。 撮影 2010 年夏

